「見てござる」

犬山・寂光院山主
松平實胤（まつだいらじついん）


千手観音（本堂）

不正、ハラスメント（迷惑行為）、詐欺（人を騙す行為）、、、、

ほとんど毎日のニュースはこの種の話題です。人生の裏表をある程度見てきた78歳になる後期高齢者の私ですら、心が塞ぎ、うんざりする毎日です。しかし、「うんざりする」と自分で言い放ちながら「俺はあいつらと違うんだ」という我が身の「自惚れ心」に、自分ながらまたうんざりするのです。「人間の性（さが）」ですかね。

私は昭和二十一年、名古屋の街のど真ん中のそれなりに由緒格式のあるお寺の次男坊として生まれました。しかし、そのお寺は昭和二十年三月十九日の名古屋大空襲で焼け出されて当時はどこから見ても貧乏寺でした。あるとき、ひもじさの余り、仏様のお供え物をかすめて裏影でコソコソ食べたことがありました。幼心にも「誰も見ていなかった、しめしめ」と、ほくそ笑んだものでした。しかし、夕刻、父が「仏様が見てござったぞ！」と私をたしなめました。続けて「お前がどこにいようと、いつも仏様が見てござる。お前が悪いことをすると仏様は悲しんでおられる、良いことをすれば、喜んでおられる」と言いました。すでに七十五年も前のことですが、これが私のトラウマになるほど、幼心に染み付いて残っています。だからといって、それ以後、この私が「良い子」であった筈がありません。悪いことをすると隠したくなる、良いことをすると人に言いふらしたくなる。まさに「人間の性」ですね、「人間だもの（相田みつを）」。しかし、何かしでかす度毎に父の言葉が蘇りました。『仏様が見てござったぞ』

慙愧（ざんき）の念にたえない

さて、現代の世相を見ると、現代人が失ったものは「慙愧の念」ではないかと思います。

慙と愧は違います。「慙」とは「人は騙せても自分の良心を騙したことには間違いない。なんと情けない、自分にすまない」という「罪の意識」のことです。「愧」とは「自分のしたことが、ひいては家族、学校、会社、社会に大きな迷惑をかけた。何と申し訳ない、世間にすまない」という「恥の意識」です。この「日本人の罪と恥を基調とする精神文化」が失われて久しい。

「見つからなければいい、見つかったのは運が悪い」という風潮、「モノ、金、効率」優先、「過程」不問の結果第一主義等が横行する現代です。これでは不正も、迷惑行為も、人を騙す行為もなくなりません。いつの時代でも「正確、堅実、正直、堂々、勤勉」が政官財をはじめ、すべての分野の王道であることには間違いありません。